



# 境町の小・中学生に先進的な英語教育を！

「本当に身につく英語教育を取り入れて子どもたちの将来の可能性を広げたい」



写真左から橋本町長、大類理事長、遠藤代表取締役社長兼所長、田山議員、増田教育長



前衆議院議員・元財務副大臣・元外務省官僚 遠藤 乙彦氏



「フィリピンの英語教育を取り入れ子どもたちに世界基準の英語力を」



AKI財団法人 大類 晶嗣 理事長

2004年よりフィリピン共和国ケソン市で日本語教室を運営し、国際的な人材育成と中小企業の国際化を目標に語学教育や海外インターンシップを推進。

a method of teaching English

## 英語教育対談

### 橋本正裕町長 × 前衆議院議員 遠藤乙彦氏 × AKI財団法人 大類晶嗣理事長

2月22日、役場町長室において、衆議院議員を6期務められ、現在は株式会社グローバルビジネス戦略総合研究所で、グローバル人材育成に携わる遠藤乙彦代表取締役社長兼所長と、フィリピン共和国で日本語教室を運営するAKI財団法人の大類晶嗣理事長をゲストに迎え、世界でもトップレベルのフィリピンの英語教育について対談を行いました。

橋本町長 近年の日本では、世界で活躍できる人材の育成が強く求められています。グローバルな人材育成に精通しているお二人に、世界で通用する英語教育について伺いたします。

遠藤氏 日本人の高い技術力は、海外でも一定の評価を得ていますが、英語での



ているのでしょうか。

大類氏 フィリピンには、アメリカの植民地として、母国語のタガログ語とは別に第二言語として英語教育が行われてきたという歴史的背景があります。フィリピン人自身が外国語として英語を学習しているため、1カ国語しか話せないアメリカ人よりも外国語学習に対して理解があり、教えるのも上手です。

また、フィリピンでは、小学校から英語で授業が行われ、大学での専門的な講義もすべて英語、教科書も英語で書かれたものしか利用しません。レストランのメニューや道路標識も全て英語で書かれており、ハリウッド映画も字幕無しで放映されています。

橋本町長 なるほど。フィリピンでは、幼い頃から英語に接する機会が日本とは比べ物にならないほど多いですね。

日本でも中学から大学まで10年間英語を授業で学びますが、大学卒業時に実際に英語を話せる人はほとんどいないですね。

遠藤氏 フィリピンでは、英語の授

コミュニケーションが苦手なため、諸外国に比べ遅れを取ってしまっているという印象があります。それを打破するためには、早い時期からの英語教育が必須だと思います。アジア諸国の小学校では、英語教育はすでに実施されていて、シンガポールやインドと共に高い英語力を持って国内外で活躍する人材を育てているのがフィリピンです。

大類氏 世界的に見てもフィリピン人の英語はとても綺麗です。陽気な国民性もあり、現在多くの企業がフィリピンにコールセンターの拠点を置いています。

また、英語学校の講師やオンライン英会話スクールの講師も、世界中でフィリピン人が主流となっています。

橋本町長 なぜそんなにフィリピンの英語が世界で選ば

業だけでなく、その他の教科も英語で教えることで、最初はまったく英語が話せない子どもたちも、英語でしか受け答えができない環境で鍛えられ、英語を聞き取る・話すという実践的なスキルが身に付いていきます。

大類氏 フィリピン人は家族の絆が強く、親、子ども、兄弟を養うために、常に良い仕事を求めています。比較的待遇の良い外資系企業のコールセンターや、英会話スクールなどに就職する条件の一つとして高い英語力が求められるため、家族を支えるという明確な目的が彼らの英語習得のモチベーションにもなっています。

橋本町長 ぜひ、境町にも、フィリピンの英語教育を取り入れることで、子どもたちの英語力を高め、将来の選択肢を世界まで広げてあげたいですね。また、そういった教育環境を整えていくことで、子育て世帯から選ばれる自治体を目指していきます。

遠藤先生、大類先生、本日はお忙しい中、貴重なお話を聞かせていただきまして、ありがとうございます。

